

2回目のフィードバックはグループで実施し、グループのメンバーが『はごろも』を見ながら、『はごろも』のデータから作例の文法項目の特徴（活用、意味など）について分析し、作例の誤用について考え修正するという形で行った。この活動には積極的に取り組んだ学習者が多かったが、自力で修正に至ったのはわずか2~3名であった。学習者が修正できなかった作例に関しては、教員がコーパスを用いて修正が必要な箇所を示した。

3回目の実践（図6、図7）では、学習者が文を作成する前に『はごろも』を参照するように指示し、参照状況についてアンケートを行った。学習者がどのぐらい、またどの項目について『はごろも』を参照したか、ということの結果は、図8にある。その結果から、コーパス参照と誤用／正用の間にはある種の相関が見られた。例えば、「べく」に関しては、事前アンケート（図7）では、「正しく使えるかどうか分からない」、「正しく使えないと思う」という回答が圧倒的に多かったにもかかわらず、作例の正用率は高かった（11例中8例）。それは、過半数の学習者が、作例の前に『はごろも』を参照したということと結びつけられる。また、反対に、『はごろも』をほとんど参照しなかった「にすぎない」の作例を見ると、誤用例が多かった（10例中8例）。誤用例の中には、意味や接続の誤用だけでなく、他文型との誤解のための誤用もあった。3回目の実践の誤用例の一部を図8の後に示す。

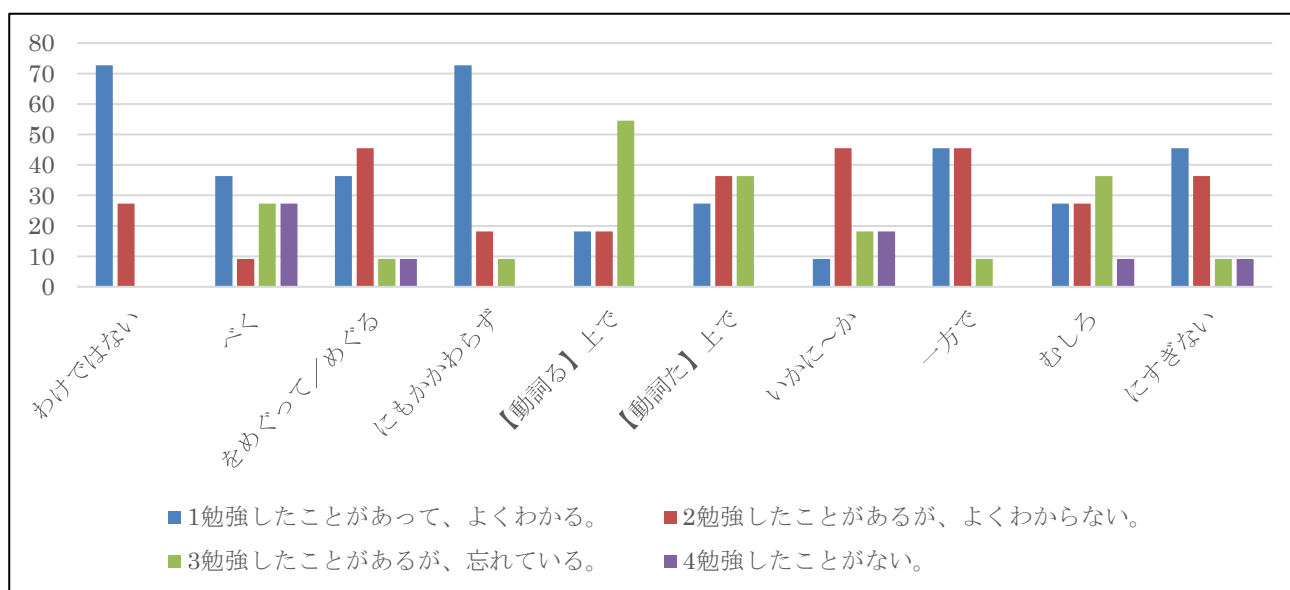


図6 3回目の文法項目の学習について

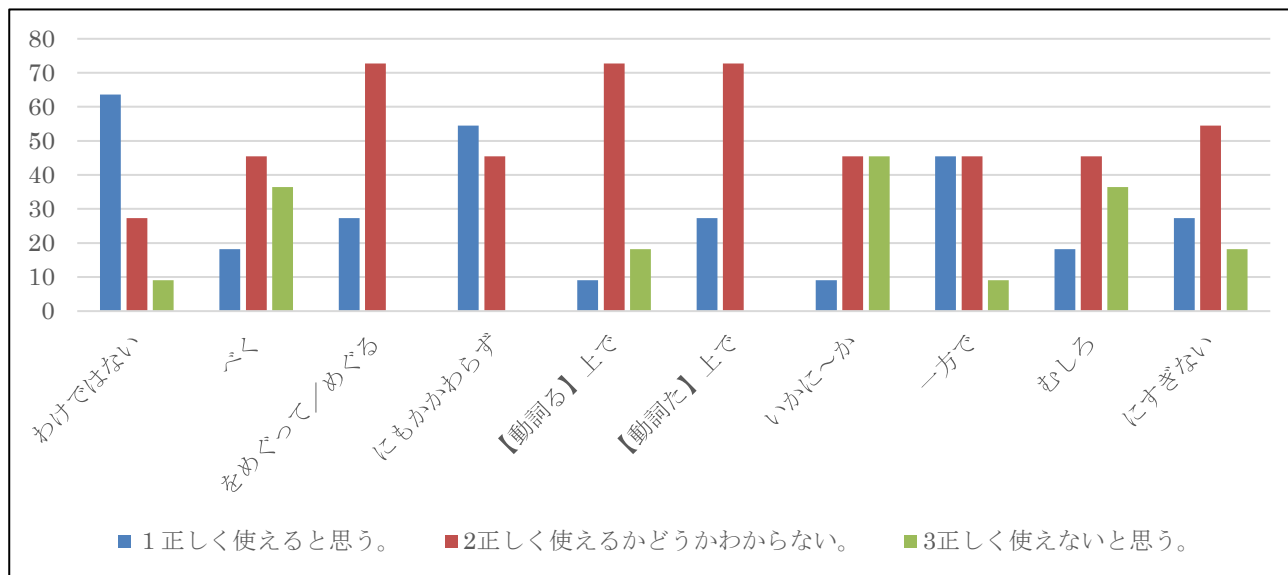


図7 3回目の文法項目の使い方について

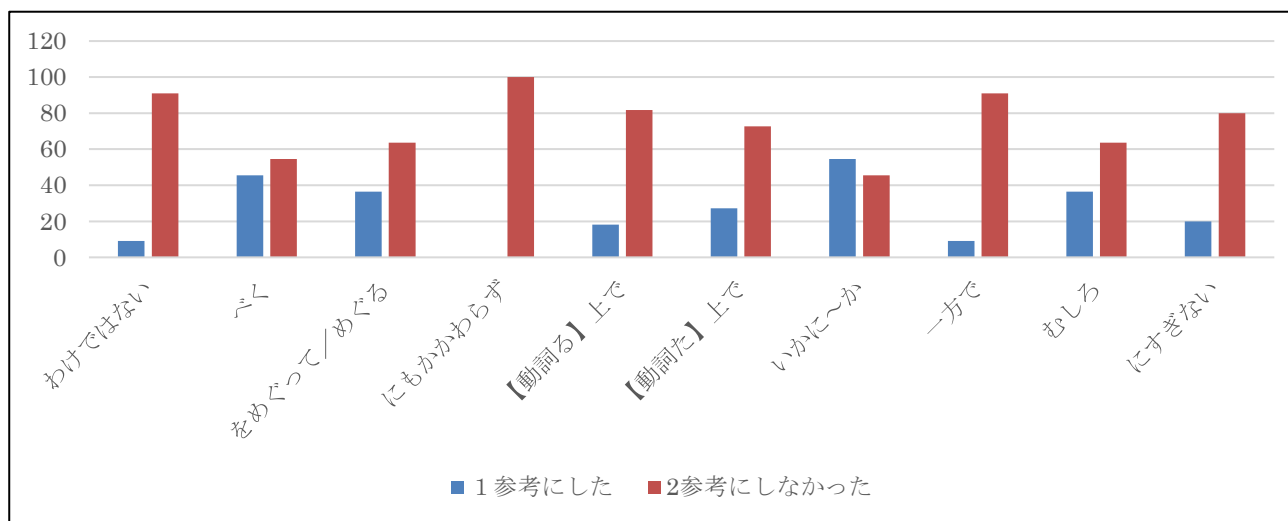


図8 『はごろも』を参考にしたか

〈3回目の実践で見られた誤用例〉

- ・体調が悪くても学校に行かないわけではない。 ← 「わけにはいかない」との誤用
- ・大学の合格のため、日本語を勉強するべきだ。 ← ※課題は「べく」であった
- ・この時間は勉強すべきのはわかっている。 ← ※課題は「べく」であった
- ・身長にもかかわらず、誰でも参加できる。 ← 「を問わず」との誤用
- ・雨を降る上で、交通事故が合った。 ← 理由の表現との誤用
- ・雨が降る上で、このイベントが中止になった。 ← 理由の表現との誤用
- ・行ける上で金沢のほうがいい。 ← 条件（「なら」）の表現との誤用

- ・日本語を勉強したうえでいいところがありますか。 ←意味・用法の違い
- ・日本語が得意一方で、英語もうまい。 ←接続（活用）の違い
- ・20歳にすぎないので、お酒を飲んではいけない。 ←「を過ぎていない」との誤用

5. まとめと今後の課題

今回の「日本語リテラシー」の授業では、自律学習へとつながる DDL を取り入れた文法学習のための実践の試みを行った。コーパスを使った学習指導はこれで初めてだったため、指導法、カリキュラムでの位置づけ、時間の配分、実施方法などに関する多くの問題があった。また、学習者も、使い慣れていないコーパスを用いた作業や普段と異なる学習スタイルに戸惑いを感じ、全力では取り組めなかった。そのため、コーパスを十分に活用できず、作例の誤用も自力では修正できなかった。

しかし、DDL を取り入れたことによって、ある種の効果もあったといえる。まず、単純に、学習者は、文法の学習や振り返りのための、有力な学習ツールの存在を知った。また、そのツールを使えば、教師不在でも文法について自習できるという認識を得た。さらに、従来の紙媒体の文法参考書のように、書物を探し求めたり、また複数ページにわたる長い解説文を読んだりするといった手間がかかる作業の必要性がなくなり、文法学習に必要なだけの情報を手軽に入手できる手段があるということも知った。しかし、学習者が実際どのぐらいコーパスを使い、またどのように自分の学習に活かしているかということについては今後さらなる調査が必要である。

今回の実践では多くの課題も残った。今後、残された課題を再検討し、次の実践のための改善策を模索したい。

References

- Huang, Z. (2014). The effects of paper-based DDL on the acquisition of lexico-grammatical patterns in L2 writing. *ReCALL* 26(2), 163–183. <https://doi.org/10.1017/S0958344014000020>
- Johns, T. (1991). Should you be persuaded: two examples of data driven learning. *English Language Research Journal* 4, 1-16.
- Leech, G. (1997). Teaching and language corpora: a convergence. In Wichmann, A. et al. (eds.) *Teaching and Language Corpora*. Longman: London and New York, 1-23.
- McEnery, T. & A. Wilson (1997). Teaching and language corpora. *ReCALL* 9(1), 5–14.
- Satake, Y. (2020). How error types affect the accuracy of L2 error correction with corpus use. *Journal of Second Language Writing* 50, 100757. <https://doi.org/10.1016/j.jslw.2020.100757>
- Satake, Y. (2022). The effects of corpus use on L2 collocation learning. *The JALT CALL Journal* 18(1), 34-53. <https://doi.org/10.29140/jaltcall.v18n1.520>

参考文献

- 佐竹由帆 (2022) 「オンデマンド授業におけるデータ駆動型学習の効果」 *Journal of Corpus-based Lexicology Studies* 4, 1-13. <https://doi.org/10.24546/81013061>
- 田辺和子, 中條清美, 伊藤誓子ほか (2012) 「新聞コーパスを活用した日本語 DDL 教材と指導実例」『日本大学生産工学部研究報告』 B, 文系 45, 73-82.
- 中條清美, 若松浩子, 浜田彰ほか (2018) 「教育用例文コーパス ScoRE を利用した DDL 指導実践」『日本大学生産工学部研究報告.』 B, 文系 51, 13-26.
- 堀恵子 (2020) 「機能語ウェブツールを使った自律的文法学習の効果」『ヨーロッパ日本語教育』 24 <https://eaje.eu/pdfdownload/pdfdownload.php?index=586-597&filename=koto-hori.pdf&p=belgrade>

ヨフコバ四位 エレオノラ
教養教育院